

第 23 回 国土交通中部地方有識者懇談会 議事要旨

日時：平成 26 年 9 月 5 日（金）10:00～12:00

場所：KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

■総括（須田座長）

○ものづくりに関する事項

- ・ものづくりは当地域の柱であるが、文化を創るという観点に立ち、ものづくりに心を入れるといった精神文化的なアクセントがある表現が必要である。
- ・基盤整備が重要となるが、整備にあたっては重点的に選択と集中を行う必要がある。
- ・人材の育成が重要であり、また女性・高齢者の社会参画や、ロボットの積極的な活用も考える必要がある。

○スーパー・メガリージョンについて

- ・道路が中心となった既存のメガリージョンとは異なり、日本の場合は、全く新しい鉄道が非常に大きな役割を果たすため、「アドバンスドスーパー・メガリージョン」という名称がふさわしい。
- ・人の流れを大きく変えていくことが検討のポイントである。
- ・当地域に存在する二つの空港をアドバンスドスーパー・メガリージョンの中でどのように位置づけていくのかを整理する必要がある。

○人・人口の問題について

- ・人口の分布については適疎適密を考えなければならない。
- ・交流のあり方についてどのように誘導すべきかを考える必要がある。
- ・地域創生は人からという考えのもと、人づくりが地域計画の重要なポイントとなる。

これから何をすべきか、何をすればいい地域になるかをビジョンの中で強調していくことが望ましい。

■各委員の主な意見

（奥野委員）

- ・リニア開業後は東海と北陸の結びつきがより強くなると思われるため、北陸との連携体制をどのように構築するのかを考える必要がある。
- ・行政・企業の担い手確保は形成計画見直しの上で重要な要素となる。
- ・都市連携については、行政の広域連合ではなく、二つの都市が市民の感覚として一体と

なるような連携が重要となる。

- ・大規模な災害による東西分断を防ぐために、名古屋駅に関しては要塞化する必要がある。

(東委員)

- ・ネットワークに関しては、インフラ整備はもちろん人と人の繋がりが大きな意味を持ち、人材の育成が非常に重要になってくる。
- ・IT技術も人をつなぐ大きな要素となるのでビジョンに盛り込んでどうか。
- ・環境と景観は一括りにせず、「環境・景観」と表記し、良好な景観形成を行い、観光資源として活かしていくべきである。
- ・ものづくりは中部の非常に大きな強みであり中部の精神文化を形成してきたので、精神的文化性の視点も踏まえて記述してもらいたい。
- ・国内外との交流連携で生まれるものは文化である。そこで「交流連携による文化創造の舞台」という記述も検討して欲しい。
- ・9地域の目指す方向性を実現するための具体的な施策、方針について記述していただきたい。
- ・産学官民が連携して地域をつくる必要があるので、大学・研究所に関する記述を入れるべきである。
- ・中部が日本をリードするというのももちろんであるが、国際社会の中で捉えた記述が必要である。

(水尾委員)

- ・全体的にもっと地域色を出し、中部が日本全体を牽引していくという力強い記述があっても良い。
- ・今後の開発について、危険性により配慮した適正な土地利用を行うということを押し出してよいのではないか。
- ・コンパクト化や強靱なまちづくりというものはどのようなものなのか、今後はどうしていくのかをより明確に示してもよい。
- ・女性・高齢者に加えロボットを労働力として積極的に活用することを記述してはどうか
- ・観光資源について、ユネスコの世界遺産登録に頼るだけでなく、我々日本人が認める独自の指標で評価し、新たなブランドをこの地域から発信してはどうか。
- ・北陸を中部に含めて考えると、北陸の人にとって何が幸せなのかをこの会議できめ細やかに考えていく必要がある。

(水谷委員)

- ・国としてやるべきことの基本はインフラ整備であり、将来の維持管理負荷を踏まえ、基幹箇所については早急に整備する必要がある。

- ・徐々に衰えている日本のものづくり産業を維持する上でもインフラ整備は重要である。
- ・将来の日本の経済状況を考慮すると、インフラ整備など国としてやるべきことを絞り込む必要がある。

(後藤委員)

- ・人間性の尊重、芸術・スポーツを基本とした精神的な充足感を醸成するような地域づくりをまんなか懇談会の中でも考える必要がある。
- ・子供達に文化力や郷土への愛着を醸成する必要がある。

(中村委員)

- ・地方部と都市部において、「適疎適密」という言葉のもとに人口バランスを考える必要がある。
- ・ものづくり産業だけでなく、第一次産業も忘れてはならない。地元での農産物の生産が重要である。
- ・労働力の不足を補うためには、外国人の活用も考えるべきである。

(林委員)

- ・基本理念において、生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）等との整合が取れるような評価の視点を入れておく必要がある。
- ・新まんなかビジョンで「限界社会で生きる」または「限界社会で心豊かに生きる」を目的として掲げてはどうか。具体的な目標としては「資源制約下での国土空間・インフラの維持整備」が考えられる。
- ・小目標として「地方への人口環流」、「首都圏と中部圏の逆流」、「歴史文化技術価値の国際共有中心」を掲げてはどうか。
- ・日本は道路だけではなく鉄道を基軸とした全く新しいスーパー・メガリージョンを形成するので、アドバンスドスーパー・メガリージョンとしてはどうか。
- ・コンパクト+ネットワークではネットワークの目的が不明確なので、コンパクト+コネクティッドとしてはどうか。
- ・街区ストックは基本インフラとなる重要な要素である。

(日置委員)

- ・河川に対する風水害の強靱化を考えた時、森林や農地の国土管理が重要な要素となってくるので、この内容について記述していただきたい。
- ・今の市町村単位でも消滅しないような営みと活動を継続していける国土像を描いていきたい。

(須田座長)

- 三英傑という表現については、よい印象を持たない人もいるので改めたほうがよい。
- 当地域全体として価値を高めるために、それぞれの街の役割分担について記述する必要がある。
- オリンピック・パラリンピックをきっかけとして、日本を知ってもらい日本全体に人が巡るようにしなければならない。

以上